

## 台東区の将来人口推計について

### 1. 基礎データ

- (1) 住民基本台帳（平成23年、平成28年、令和3年のそれぞれ4月1日時点）
- (2) 出生数
- (3) 一定規模（40戸）以上の集合住宅建設棟数及び居住者数

※（2）及び（3）は平成23年度から令和2年度までの直近10年間分

### 2. 推計方法

上記基礎データをもとに、令和2年度の人口推計に準じた推計を実施

推計期間		・令和3年～令和47年（44年間、5年間隔で推計）	
基準人口		・令和3年4月1日の住民基本台帳人口	
推計方法		・日本人（コーホート要因法） ⇒人口変動要因を勘案する ・外国人（コーホート変化率法） ⇒ 〃 勘案しない	
人口変動要因	自然増減	生 残 率	・国立社会保障・人口問題研究所が算出している台東区の生残率を設定する
		出 生 率	・直近10年（H23～R2）の出生率の平均値がそのまま続くと設定する
	社会移動	移 動 率	令和5年4月1日までは新型コロナウイルス感染症の影響による転出数の増加傾向が続くと想定し、令和2～3年の移動率を適用する。 令和6年4月1日以降は、直近10年（H23～R2）の移動率の平均値を基本とし、国全体での人口減少の観点から、将来にわたり移動率を逡減させる
		集合住宅建設 (40戸以上) の影響	・直近5年（H28～R2）の建設による転入人口（入居者数）を基準人口から除外して、移動率を算出 ・今後4年間（R3～R6）の建設による増加人口を4年後（R7年）の人口に上乗せ

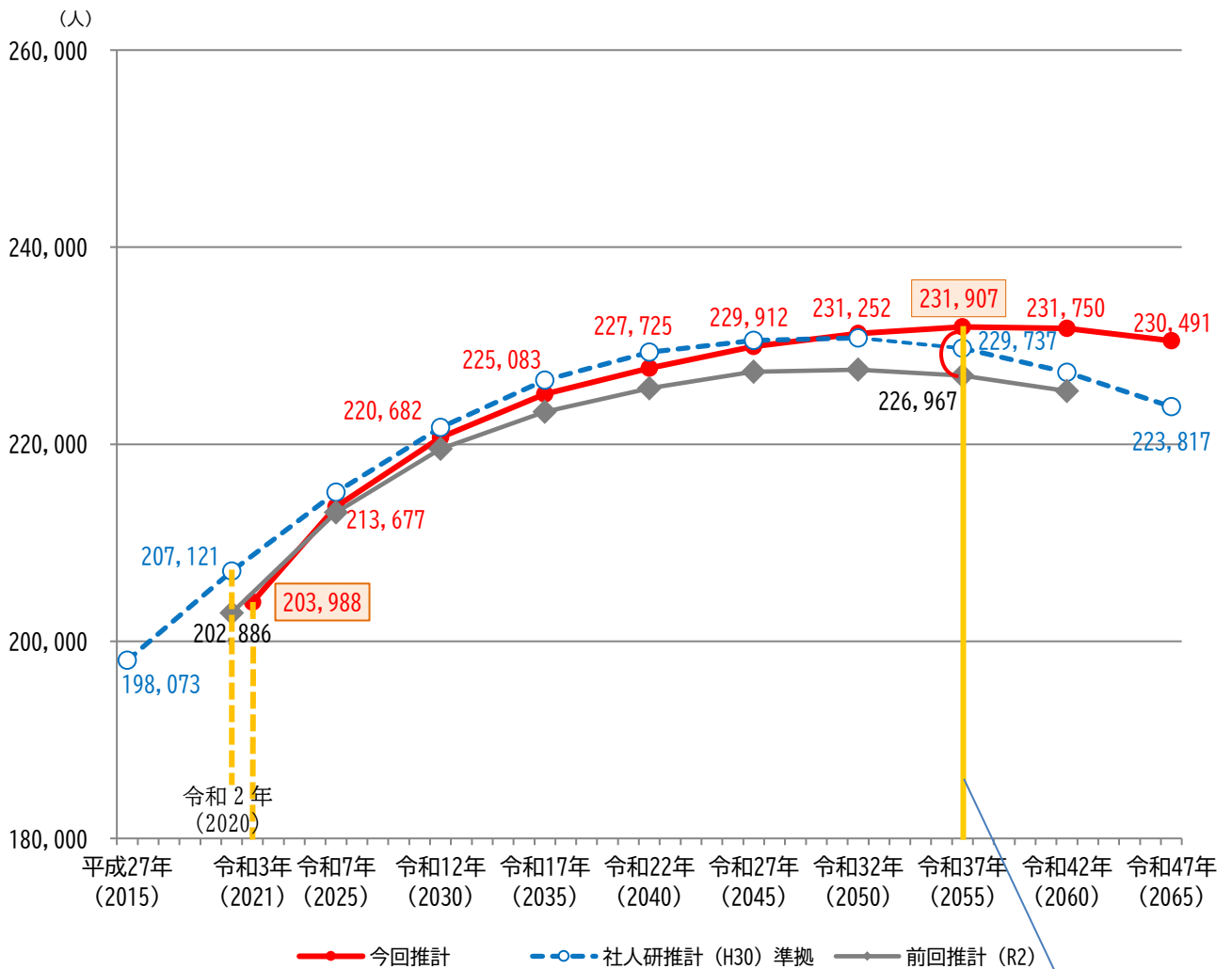
### 3. 推計結果

#### (1) 総人口の将来推計結果

- ①今回（令和3年度）区独自推計
  - ②国立社会保障・人口問題研究所（社人研）（平成30年）推計準拠
  - ③前回（令和2年度）
- 上記3つの推計を比較

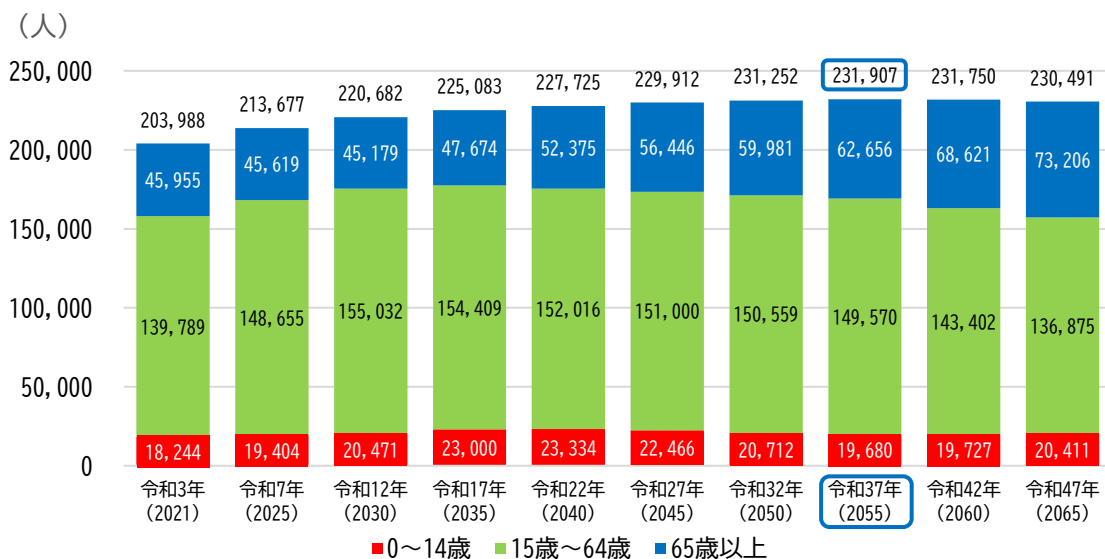
◆今回推計は、推計人口のピークである令和37年において国立社会保障・人口問題研究所（社人研）推計、前回推計を上回る結果となった。

◆前回推計時と比較し、令和37年の推計人口は4,940人拡大している。



【令和37年人口 (最大値)】	
R3 推計	231,907
R2 推計	226,967
比較差	+4,940

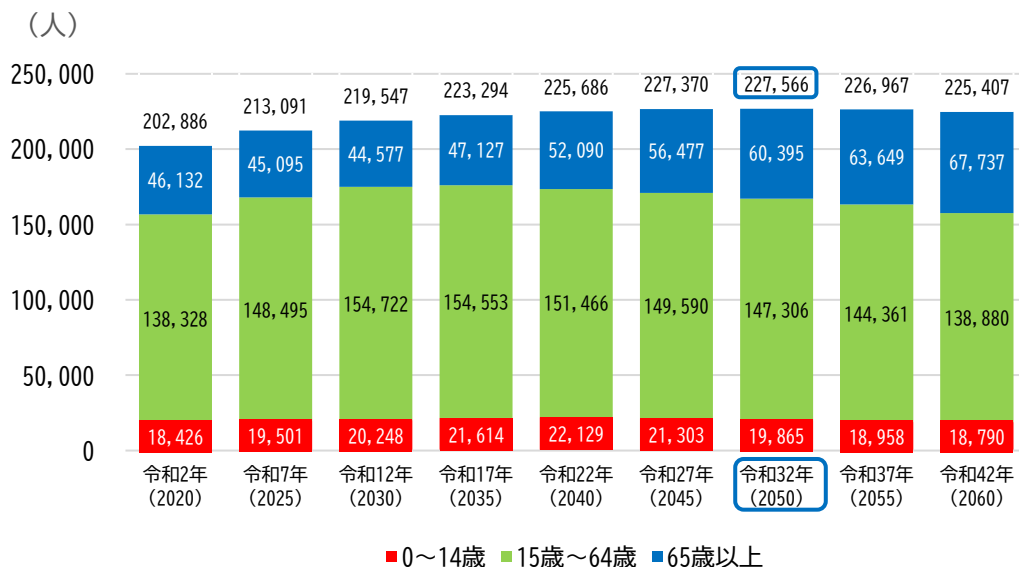
## (2) 年齢3区分別人口の将来推計



	令和3年	令和7年	令和12年	令和17年	令和22年	令和27年	令和32年	令和37年	令和42年	令和47年
65歳以上	22.5%	21.3%	20.5%	21.2%	23.0%	24.6%	25.9%	27.0%	29.6%	31.8%
15歳～64歳	68.5%	69.6%	70.3%	68.6%	66.8%	65.7%	65.1%	64.5%	61.9%	59.4%
0～14歳	8.9%	9.1%	9.3%	10.2%	10.2%	9.8%	9.0%	8.5%	8.5%	8.9%

- ◆ 老年人口、生産年齢人口の増加が人口増加に寄与している。
- ◆ 推計人口のピークは、前回推計時から5年後ろ倒しになっている。

### 【参考】 前回推計



	令和2年	令和7年	令和12年	令和17年	令和22年	令和27年	令和32年	令和37年	令和42年
65歳以上	22.7%	21.2%	20.3%	21.1%	23.1%	24.8%	26.5%	28.0%	30.1%
15歳～64歳	68.2%	69.7%	70.5%	69.2%	67.1%	65.8%	64.7%	63.6%	61.6%
0～14歳	9.1%	9.2%	9.2%	9.7%	9.8%	9.4%	8.7%	8.4%	8.3%